



POINT 1

知・技

正しい言葉の使い方を身に付ける学習活動の工夫

作文の推敲やプリントによる学習に頼りがちな敬体・常体や敬語の学習を、日頃から使い分ける意識を高めることで、生きて使える言葉の習得につなげることができる。

子どもたちの作文を読むと、敬体と常体が入り交じっている文章がよく見られる。これは、表現の効果を狙ったものではなく、文体の統一を考えていないことが原因ではないかと考える。また、敬語を知識として理解できても、使い方を身に付けることは難しいのではないだろうか。

そこで、文体について改めて考える場面や、敬語を使う場面を設定する実践を紹介する。

1 「きつねの窓」で敬体と常体を考える

「きつねの窓」の教材で、「きつねの子」と「ぼく」が会話をする場面を取り上げる。子どもにはあらかじめ該当部分をプリントしたものを配布する。下記のように、プリントには敬体・常体で書かれている部分に傍線を引いておく。

きつね 声をそろえて言ったんです。
染めたんです。
ぼく お金が全然ないんだ。
なんでもやるよ。

傍線部の言葉の違いから、どんなことが分かるかを考える。

- ・ きつねはぼくに対して丁寧な言葉遣いをしているが、ぼくはきつねに対して友達のように話している。
- ・ きつねは店の人だから、お客さんのぼくに丁寧話している。
- ・ ぼくは大人で、きつねは子どもだから、ぼくは普通に話し、きつねは丁寧に話している。

子どもたちからは、このような意見が出され、丁寧語としての敬体について学習することができた。

2 シミュレーションで敬語を学ぶ

尊敬語、謙譲語、丁寧語の区別をしたり、敬語を使った文章に直したりする学習はよく見られる。しかし、それらを日常の中で適切に使うことができるようにするには、やはり会話を通して学習することが必要となってくるだろう。

具体的には、子ども同士で目上と目下の立場に分かれて会話をする方法がある。しかし、いきなり具体的な状況だけを提示して実施するのは難しいだろう。そこで、下記のような段階を踏むこととした。

- (1) 敬語が使われていない会話文を提示し、目上と目下の立場に分かれて会話をする。
- (2) 会話文は提示せず、会話する内容だけを提示し、目上と目下の立場に分かれて会話をする。
- (3) 場所や人物などの条件を提示し、目上と目下の立場に分かれて会話をする。

状況設定としては、修学旅行の見学先での質問場面や、家での電話対応、学校での来客対応などが考えられる。ペアで練習をした後、全体の場でよかった点や改善点を話し合うことによって、目上の人と礼儀正しく会話する方法に気付くことができるだろう。

力を身に付ける工夫

音更町立音更小学校 教諭 佐々木智穂



小学校4学年

小学校6学年

中学校2学年

POINT 2

思・判・表

内容を正しく読み取るための「音読」や「発問」の工夫

音読の機会を多く設定することと発問の工夫によって、文章の叙述に即して内容を正しく読み取ることができるようにする。

文章の内容を正しく読み取るために、繰り返し音読することが重要だと考える。それは、繰り返し読むことで内容が分かるからである。また、優れた文章表現も記憶に残る。さらに、教師が子ども一人一人の音読の仕方についてもチェックすることができる。

高学年になると文章の量が多く、音読にかかる時間を多くとることは難しいが、家庭学習などで任せきりにするのではなく、授業の中でしっかり扱うことが大切だと考える。

ここでは、音読の機会を増やす工夫と、文章を正しく読み取るための発問の工夫を紹介する。

1 音読の機会を増やす工夫

音読の機会を増やすには、子どもが飽きないように、変化のある繰り返しを用いたい。

「川とノリオ」を授業したときには、以下のような変化を付けながら何度も音読を行った。

- ・小さな声で読む。
- ・起立して声を出して読む。
- ・隣の人と一文交代で読む。
- ・全員で声をそろえて読む。

まず、全員で声をそろえて読む。その後、何度か個人で練習し、最後にもう一度全員で読む。こうすることで、音読の機会を増やすだけでなく、教師が子どもたち全員の読みを評価することができる。最後の全員読みでは、「声が出せようになった」とか、「つまずくところが少

なくなった」など、上達したことを認めることができるだろう。

2 文章を正しく読み取るための発問の工夫

「川とノリオ」では、主に色に注目して発問を組み立てた。主な発問は以下のとおりである。

- ・この物語に出てきた色は何色ですか。また、それは何を表していますか。
- ・ノリオにとって、一番幸せな色は何色ですか。
- ・ノリオにとって、一番辛い色は何色ですか。
- ・青色は何を表していると思いますか。
- ・赤と白が生と死を表しているとしたら、どちらが生でどちらが死でしょう。
- ・ノリオにとって川とは、どんな存在ですか。
- ・「川とノリオ」の主題は何ですか。

意見が分かれたときには、文章中の言葉を根拠に話し合いを行った。上記5つ目の発問では、「赤は赤とんぼのように自由に生きる象徴で、白は父ちゃんの死を表しているから」というような意見が出された。

最後の主題についての発問では、

- ・人はちっぽけな存在だ。
- ・人間は悲しみを乗り越えて大きくなる。
- ・人間は川の流れのように気持ちの変化がある。

という意見が出され、主題に迫ることができた。

このように、音読の機会を増やしたり発問を工夫したりすることで、文章の叙述に即して内容を正しく読み取ることができると思う。

社会

社会生活についての総合的な理解を深める



POINT 1

知・技

歴史上の主な事象を“点”ではなく、“線”や“面”で捉える工夫

ICTを活用し、社会的な見方・考え方を働かせるように意識することで、社会的な事象への理解を深めることができる。

社会的な見方・考え方は、小学校学習指導要領解説 社会編で以下のように述べられている。

社会的な事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること

6学年の歴史の学習では、位置やその移動・変化に関する事柄（位置や空間的な広がり）、時系列の事柄（時期や時間の経過）をしっかり捉えたい。「人・もの・こと」を一つ一つの事柄として“点”で捉えるのではなく、複数の事柄を比較・分類したりして“線”として捉えること、また、それを総合したり関連付けたりすることで、“面”として捉え、社会的な事象の理解を深めていくことが大切になってくるだろう。

そのために、単元を通して知識をまとめる活動を実践していきたい。ここでは、ブラウザで使うことができるPadletを活用した。各単位時間の終末10分程度で、空間的な事柄を「マップ」に、時系列の事柄を「タイムライン」にそれぞれ投稿する形でまとめていった。

Padletは、文章での投稿のほかに、写真や動画、音声、リンク、描画など様々な方法で投稿をすることができ、興味・関心や子どもの実態に合わせて作成することが可能である。また、コメント機能を使うことで、情報を追加したり子ども同士でやり取りをしたりすることもできる。

マップでは、地図上にポイントを置いて投稿することができる。ある子どもは、遺跡の位置や朝廷、幕府の位置などにポイントを置き、それぞれについて調べて分かったことを文章や写真などを使ってまとめていた。



【マップ使用時の画面例】



【タイムライン投稿時の画面例】

教科書の登場順では見えづらい、社会的な事象の前後関係や、距離感などを継続してまとめることで、それぞれの事柄をつなげることができた。1つのPadletを共有することもできるので、協働的な学びの充実にも大変効果的だろう。

ための input と output の工夫

幕別町立札内北小学校 教諭 糸山 修斗



小学校4学年

小学校6学年

中学校2学年

POINT 2

思・判・表

習得した「知識及び技能」を基にした表現方法の工夫

社会的事象について比較・分類したり総合したりし、ICTを活用した表現方法を用いることで、理解を深めるとともに、協働的な学びの充実につなげることができる。

習得した「知識及び技能」を基にして、調べた歴史上の主な事象を関連付けたり整理したりして、まとめたことを表現する活動として、以下のような実践例を紹介する。

1 時代を表すカード作り

単元の終末に、その時代を表すカードを作成し、教室の年表に掲示していく活動を1年間継続して行った。小さいカードの中にその時代を象徴する「人・もの・こと」を入れていくことは、必然的に知識を取捨選択し整理することにつながり、理解を深めるのに効果的であった。

この活動では、Canvaを活用した。このサイトでは、様々な書類や掲示物、プレゼンテーションなどを作成することができ、豊富なテンプレートや素材を簡単に使うこともできるため、子どもたち一人一人に適した表現方法を選択することができると思う。共同編集も可能なため、友達同士やグループでの作成も効果的だろう。



【子どもが作成した時代カード例】

2 ゲーム性の高いクイズ作り

もう一つは、単元の終末に効果的だった Wordwall を活用した活動である。このサイトでは、ゲーム性の高いクイズを作ることができる。ある子どもは、歴史上の人物に着目し、ク

イズを作成した。知識の定着を図りながら、人や出来事の相互関係、場所や変化といった、社会的な見方・考え方を働かせる学習活動になっていた。お互いに問題を出し合ったり一緒に問題を考えたりする活動は、協働的な学びの充実にもなるだろう。

また、クイズの実施数が増えていくことが意欲の高まりとなり、問題レベルを調整するなど工夫する姿も多く見られた。



【左：画像を使ったクイズ 右：マッチアップクイズ】



【Wordwallで作成したクイズ例】

このような活動の工夫は、見栄えはよいが内容が不十分になってしまうことが考えられる。そうならないように、作成後に出题の意図を交流したり、お互いに評価し合ったりすることなどを通して、社会生活についての理解を深めたい。また、単元ごとや時代ごとの枠にとらわれず、“武士中心の世の中”のように、ある一定のテーマをもって活動することも、より見方・考え方を働かせた学習活動となるだろう。

算数

目の前の問題を解くだけではなく、その先

POINT 1

知・技

単元の中で、汎用性の高い数直線図を常時活用する指導

公式に当てはめて解くだけではなく、問題場面を整理し、可視化する習慣を付けていくことで、複雑な文章問題に出合ったときにも困らない子どもを育てる。

学級には文章問題を得意とする子どもがいる。その子どもたちに共通していることは、複雑な文章問題や図などをシンプルに捉えることができたり、難しい分数や小数などを簡単な整数に置き換えたりするなど、「難しい」を「易しい」に変換する力をもっていることが多い。

そこで、数直線図で問題場面を可視化し、「難しい」を「易しい」に変換する実践を紹介する。

6学年「分数のわり算」の単元後半には、次のような文章問題が設定されている。

右の表のような長さの、3本のリボンがあります。
赤のリボンの長さをもとにすると、青のリボンと黄のリボンの長さはそれぞれ何倍ですか。

| | 長さ (m) |
|---|---------------|
| 赤 | $\frac{1}{2}$ |
| 青 | $\frac{5}{4}$ |
| 黄 | $\frac{3}{8}$ |

この問題では、一度に3本のリボンの長さが提示されているところが複雑だと思われる。こ

の段階では、「まずは、赤と青を比べよう」という考えを子どもたちから引き出したい。

その後、「“赤のリボンの長さをもとに”と書いているから、赤で割ればいいんだね」と言う子どもが出てくると思われるが、ほかの多くの子どもたちは、その考えを理解できていない状態だろう。そこで、数量関係の大小などについて、数直線図を活用して整理し、可視化していくことで、ほかの子どもたちも徐々に問題に向き合うことができるようになると思う。

数直線図は、「小数のかけ算、わり算」「分数のかけ算、わり算」「割合」の学習で効果が発揮されることが多いと考える。ただし、一朝一夕で活用できるようになるわけではないだろう。5・6学年の各単元を通して繰り返し指導を続けることで、「使うことができる武器」となっていくと考える。最初は書くことに抵抗感を抱く子どもが多いかもしれないが、根気よく指導を続けていくことが大事だと思われる。

6/21 P70 No.9

下の表のような長さの、3本のリボンがあります。
赤のリボンの長さをもとにすると、青のリボンと黄のリボンの長さは、それぞれ何倍ですか。

| | 長さ (m) |
|---|---------------|
| 赤 | $\frac{1}{2}$ |
| 青 | $\frac{5}{4}$ |
| 黄 | $\frac{3}{8}$ |

あの世では、1とみる
2つおけるの！
たぶん出て難いからだけ。
1つずつ解いていこう！

① 赤のリボンと青のリボンと比べよう。
 $\frac{1}{2} \times 2 = 1$
 $\frac{5}{4} \div \frac{1}{2} = \frac{5}{4} \times 2 = \frac{5}{2}$
 どの？
 式 $\frac{1}{2} \times 2 = 1$
 $\frac{5}{4} \div \frac{1}{2} = \frac{5}{4} \times \frac{2}{1} = \frac{5}{2}$ 倍

② 赤のリボンと黄のリボンと比べよう。
 $\frac{1}{2} \times \frac{3}{4} = \frac{3}{8}$
 $\frac{3}{8} \div \frac{1}{2} = \frac{3}{8} \times \frac{2}{1} = \frac{3}{4}$ 倍
 式 $\frac{1}{2} \times \frac{3}{4} = \frac{3}{8}$
 $\frac{3}{8} \div \frac{1}{2} = \frac{3}{8} \times \frac{2}{1} = \frac{3}{4}$ 倍

比計算？
比べられる量÷かかす量？
数直線に表してみる？

分数のときは、ある大きさが、もとにする大きさの何倍にあたるか求めるには、わり算を使う。

【授業板書例】

まで見据えた学習指導

芽室町立芽室南小学校 教諭 大草 恵輔



小学校4学年

小学校6学年

中学校2学年

POINT 2

態度

子どもたちが主体的に関わっていくための仕掛けづくり

算数の学習でゲーム要素を取り入れる際、あえてルールを完璧にしないことで、子どもたちが主体的にそのゲームに関わりながら学ぶことができる。

6学年の算数では、最初の単元が「対称な図形」の学習に設定されていることが多い。学年始めということもあり、子どもたちは意欲をもって学習に取り組むことが多いと思われる。

しかし、線対称な図形に比べて子どもたちの生活になじみの薄い点対称な図形の学習になると、理解することが難しい子どもが多くなることが考えられる。特に、点対称な図形の作図については、苦手意識をもつ子が多いだろう。

そこで、単元末の学習のまとめで下の板書のようなゲームを行った。子どもたちは、楽しみながら点対称な図形の性質を理解し、作図の技能の習得につなげることができた。

このように、ゲーム要素を取り入れることで、「知識及び技能」の習得を図ることができるが、ルールの提示を工夫することで、「主体的に学習に取り組む態度」も養うことができると考える。

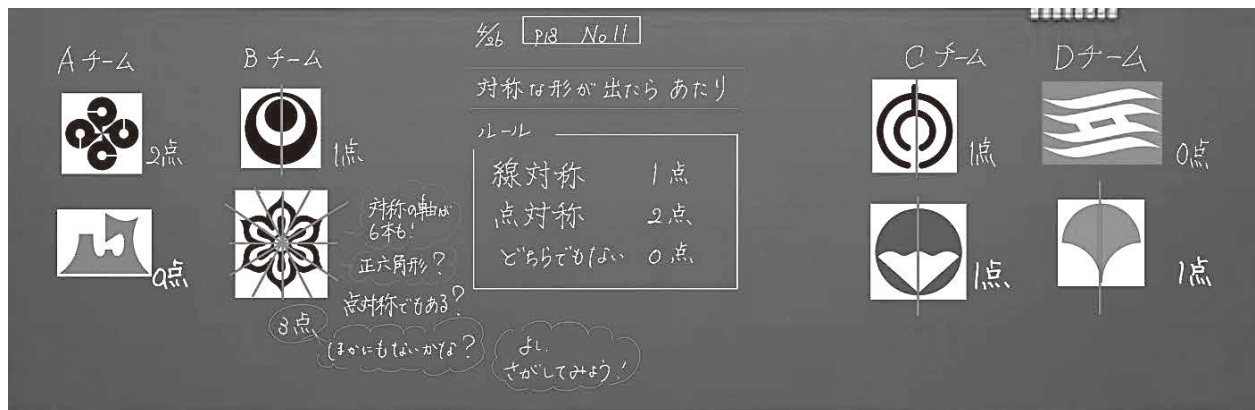
この授業では、「都道府県を代表するマーク」をくじで引き、出たマークによって点数が入るというシンプルな内容とした。どの学年であっ

ても、算数の学習でゲームを行う際は、ルールをあまり複雑にしないことが大切だと考える。

シンプルにすることで、子どもたちがゲームに取り掛かりやすくなるだけでなく、途中で「先生、ここはルールを〇〇にしたらどうですか？」とゲームに主体的に関わっていくようになると思う。

実践した授業では、Bチーム下図「京都府のマーク」が出た際、子どもたちから「あれ、これって線対称でも点対称でもあるよね？」という声が上がった。その後、「じゃあ、これって何点？」と子どもたちは話合いを始めた。これは、ルールをシンプルかつ完璧なものにしていなかったことで生まれた展開だと思われる。

最初から完璧なルールを設定することでゲームは理路整然と進むかもしれないが、それでは先ほどのような議論は生まれにくいだろう。ルールを曖昧にすることで、子ども同士や子どもと教材の関わりが生まれ、楽しさだけではなく能動的な姿を生み出すことができると考える。



【授業板書例】

理科 図や記号を用いた論理的思考力の育成と



POINT 1

思・判・表

論理的思考力を育む協働的な授業展開の工夫

はさみ、トング、釘抜きなどの「てこの原理」を生かした道具を説明し合う協働的な学習を通して、論理的思考力を身に付けることが可能になる。

新型コロナウイルス感染症対策が見直され、これまで制限されていた対面によるグループ学習を授業で取り入れることが可能となった。そこで、「てこ」の単元を例に論理的思考力を育む協働的な授業展開の工夫を紹介したい。

まず、大型のてこや実験用てこを用いたグループによる協働的な活動を通して、てこの原理についての共通認識を図る。

次に、てこの原理を生かしたはさみ、トング、リングプル、釘抜きの説明をグループ内又は学級全体で行い、より多くの他者を納得させるための論理的な説明の仕方を子どもたちが身に付けられるようにする。説明の際は、てこの図や矢印などの記号を使うことで、より理解を深めることができるだろう。実践の詳細は、以下のとおりである。

1 大型のてこを用いた実験（先行体験）

大型のてこを用いて、1グループ2～3人の少人数で実験を行う。一人一人がより多く体感し、定性的な意味で力点の位置と手応え、作用点の位置と手応えの関係をグループ内で共有することができるだろう。



【大型のてこ】

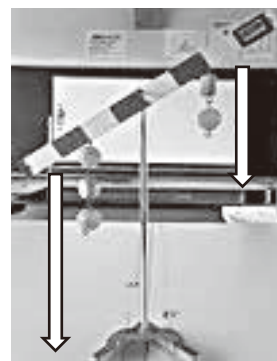
2 実験用てこを用いた実験（具体→抽象）

手応えといった定性的な感覚を実験用てこを用いた協働的な学習活動を行うことで定量化する。さらに、図や記号を用いることで、てこの

原理に関する理解が深まると考える。しかし、てこを傾ける働きの大きさを（おもりの重さ） \times （支点からの距離）といった定量的な表現だけでは抽象度が高い。

そこで、ワークシートの表に数値を集計するだけでなく、てこを傾ける働きの大きさと方向を矢印で表すことで、具体的なイメージをもつことできるだろう。

また、てこを傾ける働きの大きさを矢印の長さで表すことで、視覚的に捉えることが可能となり、理解が深まると考える。

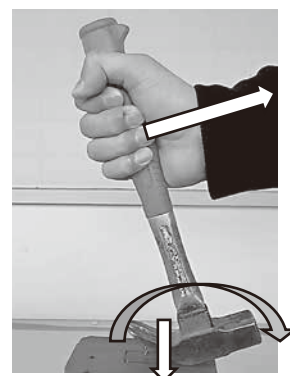


【矢印の長さで表す例】

3 身の回りのてこの説明（抽象→具体）

上記のような実験を通して、てこの原理を抽象的に理解した子どもでも、身の回りの道具で用いられているてこの原理を、ほかの子どもに説明することは難しい可能性があるだろう。

そこで、言葉による説明以外にも、前時で活用していた図や矢印を用いて説明し合うことで、視覚的にもより具体的なイメージをもって理解をすることができると考える。



【釘抜きの例】

「知識及び技能」の習得を図る工夫



足寄町立芽登小学校 教諭 太田 直也

POINT 2

知・技

「知識及び技能」の習得を図るワークの作成と適切な実施機会の設定

子どもたちの実態に応じて理科学語を使ったワークを作成し、子どもとの対話を通してワーク学習の適切な実施機会を設定することで、学習意欲の向上と「知識及び技能」の習得を図る。

単元の指導計画に基づいて指導したつもりでも、子どもたちに「知識及び技能」が十分に定着していないという経験をしたことがある方もいるのではないだろうか。

そこで、子どもたちの実態に応じた、「知識及び技能」の習得を図るためのワークの作成と、対話を通して適切な実施機会を設定することについて、「生物と環境」の内容を例に提案したい。

1 「知識及び技能」の習得を図るワークの作成

今回は、「生物と環境」の中でも「呼吸」に関わる「知識及び技能」の定着が思わしくなかった場合を想定して検討してみたい。

理科の特性上、論理的思考力を問うような問題を作成することが求められる。そこで、「知識及び技能」の習得を図るために、「同等関係」「対比関係」「因果関係」という3つの文章構造を基にして、時間、空間、自他、心理、五感、目的・手段、+・-といった観点で整理する。そして、自然の事物・現象について理解したり問題を解決したりするようなワークを作成する。ワークの例としては、次のような内容が考えられる。

問1 「呼吸」について説明した文です。

()に適切な語句を書き入れなさい。

呼吸とは、体の中に(酸素)を取り入れ、外に(二酸化炭素)を出すことです。

【同等関係を整理するワークの例】

問2 以下に、「呼吸」の実験の結果を示しています。結果を参考に(1)~(2)の問いに答えなさい。

| | | |
|---|-------|------|
| A | 酸素 | 約18% |
| | 二酸化炭素 | 約3% |

| | | |
|---|-------|--------|
| B | 酸素 | 約21% |
| | 二酸化炭素 | ほとんどなし |

(1) AとBのどちらが「はき出した息」の酸素と二酸化炭素の量を表していますか (A)

(2) (1)で答えた理由を説明しなさい。

AはBよりも酸素の量が少なく、二酸化炭素の量が多い。だから、Aが「はき出した息」と言える。

【対比関係、因果関係を整理するワークの例】

2 対話を通したワーク学習の提案

子どもとの対話を通してワーク学習の適切な実施機会を設定することで、より効果的に「知識及び技能」を習得することができるだろう。

教師：「理解が十分じゃないのはどこかな？」
 子ども：「〇〇と△△ができていなかったな」
 教師：「いつワークに取り組みればいいかな？」
 子ども：「朝学習で取り組んでみます」
 教師：「よし！朝学習で取り組んでみよう！家庭学習でも取り組むといいね」

【子どもと教師の対話例】



POINT 1

態度

目標に向かって主体的に学習に取り組むための工夫

普段から目標を意識した授業設定を繰り返し行い、目指す姿を具体化することで、子どもは目標を実現するために主体的に考えて行動しようとする。

1 パフォーマンステストの目標設定

パフォーマンステストは、子どもに習得した「知識及び技能」を実際に活用させる形で、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」などを評価するためのテストとして有効である。「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語」（国立教育政策研究所、2020年3月）によると、パフォーマンス評価は「学期に1回程度」と記されている。

本実践では年2回、前・後期末にパフォーマンステストを行い、子どもと教師で1対1のやり取りを行った。

複数の単元を組み合わせたパフォーマンステストでは、扱うことのできる言語材料が増え、コミュニケーションの目的や場面、状況などを基に目標設定しやすくなるだろう。

2 パフォーマンステストを軸とした「主体的に取り組む態度」の育成

パフォーマンステストに向けて、普段の授業でモデルを何度か示す。それらを見て、「どのような発表がよいか」という問いに対して、自分たちで考え、意見を交流することで、その姿を明らかにしていく機会を設定する。具体的な姿の提示を見て、よい点を共有することで「目指す姿」が子どもの目標となっていくだろう。右上に示した例は、実際のパフォーマンステストにおいて子どもたちに示したものである。

発表で気をつける点

- ・相手の目（方）を見る（eye contact）
- ・適度な声の大きさと（proper voice）
- ・笑顔でさわやかに（nice smile）

【発表での「目指す姿」の例】

「目指す姿になるために今何をするか」を考える逆算の考え方が重要であり、まさにパフォーマンステストが効果的であると考えられる。

この工夫により、目的意識をもって活動に取り組む効果が期待できるだろう。

3 「目指す姿」に向けた目標設定

「目指す姿」を具体化するためには、「単元の終わりには何ができるようになるか」という学習到達目標を表したCAN-DOリストを子どもと共有することが有効と考える。

また、1年後の理想とする姿に向けた目標設定、中学校へつなげる中・長期的な目標設定、英語で何ができるようになりたいかの将来的な目標設定も大切だと思われる。

目標を意識して学習に向かうことで、「なんとなくやる」「言われたからやる」から脱却し、「こういう姿になりたいからやる」に変わっていく。このように具体的な目標設定をすることで、主体的に学習に取り組むことができるだろう。

| 学習到達目標（Can-Doリスト） | | | |
|-------------------|---|--|--|
| | 単元 | 話すこと(やり取り) | 話すこと(発表) |
| 後期 | Lesson 9 Junior High School Life (8時間) | 中学校生活について簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる(つ) | 中学校で入りたい部活動や楽しみにしている学校行事について、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる(つ) |

【単元におけるCAN-DOリストの例】

をもって授業に取り組むことの効果

幕別町立札内南小学校 主幹教諭 市川 篤志



小学校4学年

小学校6学年

中学校2学年

POINT 2

思・判・表

パフォーマンステストを位置付けることとその効果

パフォーマンステストを位置付けることで、既習事項を基に課題に取り組み、実際の使用場面で英語を活用することにつながる。

小学校外国語科においては、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成には、既習事項を活用する言語活動を設定することが望ましいと考える。

発表とインタビューのパフォーマンステストでは、「話すこと [発表]」と「話すこと [やり取り]」の双方を見取ることができる。また、教師と対面し、テストの指示や質問など全てを英語で行うことで、子どもたちは理解していること・できることを基にしてテストに取り組むこととなる。これにより、「思考力、判断力、表現力等」を育成することができるだろう。

ここでは、6学年で実際に行ったパフォーマンステストの実践を紹介したい。

1 パフォーマンステストの内容

単元「あこがれの中学校生活」において、中学校の部活動や学校行事の中で自分が取り組みたい内容でワークシートを作成し、教師に対して発表を行う。また、発表後は既習事項に関する3つの質問に答えるという、発表とインタビューを合わせる形式を設定した。

発表では、ワークシートを提示しながら、自分の考えを相手に届けるという意識をもって伝えた。その後は“What do you want to be?” や“What’s your best memory?” “What country do you want to visit?” などの質問に対して、既習事項を使って返答することができるかを確認することとした。



【パフォーマンステストの様子】

2 A E T の積極的な活用と評価基準の共有

パフォーマンステストでは、実際の使用場面における言語活動とするため、A E T が発表の聞き手、インタビュアーとなり、評価を行う。そのため、会話の全てが英語となり、それを自分の力で乗り越えることで子どもの自信につながると考える。

評価基準については、下記の表に記載されている内容を共有して評価を行う。ネイティブ・スピーカーであるA E T と連携した指導は、子どもたちの英語力の向上にも大きく影響するだろう。

| Evaluation Criteria 【Thinking / Discernment (judging) / Expression】 | | |
|---|---|--|
| Evaluation | Speaking(Communication) | Speaking (Presentation) |
| A | Question and Answer Students can answer 3 questions. | Excellent (Well organized speech, clear voice and good eye contact) Very communicative |
| B | Question and Answer Students can answer 1-2 questions. | Good (organized speech, clear voice and eye contact) Communicative |
| C | Question and Answer Students can't answer any questions. | Not good (not organized speech, not clear voice and no eye contact) Not communicative |

【ルーブリックの評価基準例】